



# か・め・だ・よ・り



平成22年 元旦

## 新春号

2010 1月1日発行

函館市亀田農業協同組合



- J A北海道大会報告
- 4地区合同役員研修会報告
- 役員視察研修報告 他



代表理事組合長 山 岸 栄 一

# 2010・年頭挨拶

新年明けましておめでとうございませう。

平成22年の新春を、ご家族と共につつがなく迎えられたことと、心よりお喜び申し上げます。昨年一年間の農協事業運営につきましては、大きな事故もなく無事に終えることができました。これも組合員各位のご理解とご利用の賜と深く感謝を申し上げます。

世界経済は最悪期を脱したと言うものの、依然として不安定な情勢が続いております。

我が国経済も、内需不振・雇用・所得の悪化に歯止めがかからず、デフレスパイラルに陥り苦境に立っております。

歴史的政権交代が実現し、民主党を中心とする基本政策「コンパクトから人へ」と大きく舵を切り、22年度予算編成も国債大量発行に依存する極めて厳しい情勢が予測されます。農業政策も食糧・農業・農村基本計

## 補償

画の見直しに加え、農家戸別所得保障制度の導入などを掲げているものの、予算規模・対象事業の削減など流動的で不透明な状態にあります。更にWTO農業交渉やEPA・FTA交渉の早期決着が懸念される中、地域農業はもとより地域経済も深刻な打撃を受けることから、関税引き下げ阻止・重要品目確保に向け、JAグループ北海道と共に関き続き強力な農政運動の展開が重要であります。

さて、昨年の営農販売事業を振り返ってみますと春先の天候が安定せず、馬鈴薯・主力野菜の作付が大幅に遅れ、更に4月26日季節はずれの暴風雪の影響が重なり早出し産地の優位性は発揮できませんでしたが、品質価格ともまずまずのスタートで始まりました。

6月～8月上旬までは多雨日照不足から馬鈴薯疫病の発生や湿害による腐敗で品質・収量の

悪化を招き、併せて秋冬野菜の定植遅れや、収穫作業は困難を極める結果となり生産農家にとって苦勞の絶えない一年でありました。

前述の環境にあっても水稲の作況は98、主力の馬鈴薯は近年にない好価格で取引されたことは、せめてもの救いであり、秋冬加工契約野菜も概ね計画量を確保することができました。

一方、養豚は不況による消費の冷え込みと夏場の天候不順、出荷増により枝肉は異常低迷相場となり、今後の相場動向も不透明で厳しい情勢となっております。

生産資材につきましては、一昨年の肥料高騰から一転して落ち着きを取り戻しつつあるものの、原油価格・為替・世界的食糧需給の動向いかによって、再び不安定になることが予測されますことから、23年度以降安定供給を最優先に系統肥料協同

購入積立金の増額に対応して参ります。また、国の肥料高騰緊急対策事業の交付申請（2、800万円）の処理と、生産コスト圧縮対策として、肥料・農薬・種子に対する期中利用高割戻し（700万円）を実施させていただきます。

金融共済事業は、農畜産物の価格低迷や地域経済の悪化を背景に資金需要が乏しく、同業他社との競争も激化しておりますが、リスク管理を徹底し組合員・地域利用者への積極推進を図ると共に機関保証付きローンの伸長に努め、より信頼度の高いJAバンク・JA共済を目指して参ります。

燃料事業は運営を㈱ジェイエイ・エネルギー販売に移管して一年以上が経過しました。皆様のご利用をはじめ地域住民にも支持され、取扱量も伸びて経営収支も改善が進んでおります。全道系統SSでは15ヶ月連続一位にランクされており、LPG・灯油販売を併せ引き続き努力を重ねて参ります。

今年は経営3カ年計画及び第9次農業振興計画の中間年であり、政治・経済・社会は当面不安定な情勢が続くものと思

われませんが、経営理念である『地域とともに歩むJA』を基本として、安全・安心な農畜産物生産支援や、地域住民とのふれあい活動拠点としての農産物直売所の運営支援など積極的に取り組んで参ります。

最後に昨年11月20日JA北海道大会が開催され、向こう3年の取組指針が決定されました。大会議案は「北海道農業の潜在能力のフル発揮への挑戦」と「協同と信頼の絆で築く新時代のJA」であり、特別議決として「JAグループ北海道への結集」を満場一致で決議をいただきました。当JAも指針に沿った運営をして参ります。

私たちの先輩が築いた組織の原点は、一人の力では大資本に対抗できないことから農業者一人一人が資本を出し合って協同組合を組織しました。従って全員が力を結集してこそ組織力が発揮できるものと確信しております。組合員・役員がその意義を改めて確認しこの難局を打開して参りますので、一層ご理解とご支援をお願い致します。本年も災害がなく豊穡の出来秋を迎えることができますことを心から祈念申し上げます。当たってのご挨拶と致します。



## 新年にあたり

### 北海道農業協同組合中央会

会長 飛田稔章

組合員をはじめJA役職員の皆様方が、希望に満ちた平成22年の新春を家族とともに迎えられたことを心からお喜び申し上げます。

昨年の本道農業は、夏の長雨と日照不足などの天候不順により、米の作況指数89になる等、総体的に平年作を下回る厳しい結果となり、その被害総額が約600億円の見込みとなりました。JAグループ北海道といえども、関係団体を含めた「平成21年度北海道農業団体冷湿害等対策本部」を設置し、北海道など関係団体と連携して、組合員の営農と生活の安定に向けて諸対応を行っているところであります。

さて、わが国の景気は、国内外の政策発動を主因とする効果により春先以降の持ち直しの動きがあるものの、失業率が5%を上回る高い水準にあり、依然として、世界の金融危機に端を発する経済混乱の影響を脱しきれない状況にあります。

また、北海道農業は、農業者の高齢化と担い手の不足など、地域農業の構造変化が続く中で、農地制度改革や食料・農業・農

村基本計画の見直し、戸別所得補償制度の導入検討など、農業政策は大転換期を迎えております。

さらに、WTO農業交渉やEPA・FTA交渉の決着に向けた動きが模索されており、その決着如何では北海道農業はもとより、関連産業、地域経済にも深刻な影響をおよぼすことが危惧されております。

このため、JAグループ北海道といましては、断固阻止の立場から、今後も、全国のJAグループや道内の経済・消費者団体などと連携し、あらゆる対応を図ってまいります。

こうした中、昨年開催した第26回JA北海道大会では、「協同の力で築く『あすの食をささげる北海道農業』」を主題とし、組合員がJA運動の主人公であることを再確認し、日本の食料基地北海道を自負するJAグループ北海道として、「北海道農業が保有する潜在能力をフル発揮して、農業者が農業生産に意欲的に取り組むことができるための農業所得の拡大に取り組む」とともに、「JAと組合員の強固な結びつきのもと、多様な事

業機能の発揮により、組合員・地域住民のみならず利用されるJAづくりに向けて取り組むこと」を決議しました。

この決議事項は、向こう3カ年におけるJAが取り組むべき指針であり、その実践を通じて北海道農業がさらなるステップアップを図り、食料自給率の向上に寄与し、安全・安心な農畜産物の安定供給を通じて、消費者の皆さんが、北海道農業を応援してもらうための取組みであり、また、JA経営においては、経営の健全化と強靱な経営基盤を確立し、組合員の期待に応じられる高度な事業機能を有するJAとなることを目指すものでありますので、全JAでの取組みが求められるものであります。

最後に、金融不況による景気の低迷や、WTO農業交渉等の進展が、私ども農業界に与える影響が懸念されますが、全道の組合員の皆さんをはじめ役員が「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の理念をより所にして、JAへの結集を強め、協同運動を強力に展開することにより、この苦境を打開できるものと確信しております。

本年は災害がなく豊穡の出来秋を迎えることができますよう心から祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



## 年頭のご挨拶

渡島支庁渡島農業改良普及センター

所長 前田 和子

新年明けましておめでとうございます。平成二十二年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年の道内農業は、日照不足と記録的な降雨により、水稲、小麦、飼料作物等に大きな被害が発生しました。渡島管内では野菜、馬鈴薯、飼料作物で生育遅延や減収、品質低下といった影響はあったものの、八月以降の天候回復により被害は最小限にとどめることが出来ました。生産者はじめ関係機関の皆様のご努力に敬意を表します。

さて、国内における景気回復の兆しが見えない中で、生産資材費高騰と農畜産物の価格低迷は農業・農村の活力を奪っている一方、我が国における食料自給率向上は喫緊の課題であり、食料基地としての北海道農業の

役割は益々大きくなっているのも事実であります。

道南の農業は、地域の条件を活かし春野菜の早出し産地として発展してきました。近年は直売による地産地消や、高付加価値化の取組が活発になっております。今まで培ってきたノウハウ「地域力」を大いに発揮されることを期待しております。

農業改良普及センターは、農畜産物の生産性向上支援はもとより、農地の有効活用や機械施設の共同利用など、地域農業がどうあるべきか、皆様と共に考え、担い手が希望の持てる地域づくりのお手伝いをさせていただきます。本心が皆様に取って健康で希望に満ちた年でありますよう心から祈念申し上げます。年頭のご挨拶いたします。

## 4 地区合同役員研修会開催される

11月30日湯の川花びしホテルで行われた、平成21年度道南・後志・日胆・石狩地区合同JA役員研修会に山岸組合長をはじめ11名で参加しました。

中央会札幌支所管轄の4地区組合長会主催によるもので、各地区より総勢約270名の役職員の参加があり、まず全体研修としてホクレン顧問矢野征男氏の「農協運動40年の体験と北海道農業の展望」を自らの経験を踏まえた講演がありました。

次に理事と監事が、別会場となりそれぞれ研修を受けました。

理事研修は、元(株)はとバス代表取締役社長宮端清次氏による「お茶一杯から始まった“はとバス”の経営改革」、監事研修は、中央会札幌支所による「冬季監事研修」が行なわれました。





# 新年のご挨拶

生産連絡協議会

会長 佐藤 均

新年あけましておめでとうございます。

部会員及び各関係機関の皆様方には、部会並びに協議会の活動に対し、特段のご理解とご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

昨年は、リーマンショックの影響と農業資材高騰のなかで春耕期を迎えました。

緊急経済対策事業に期待をしながらのスタートでしたが、春の低温、7月中旬からの長雨で春夏野菜や馬鈴薯・水稻の生育に甚大な影響を与えました。

特に早出し馬鈴薯とトンネル人参では、排水の悪い圃場で塊茎腐敗が発生し商品化率を大きく下げました。

水稻は後半の天候の回復で作況が98まで改善しました。

秋冬野菜の収穫期も長雨で苦

勞の多い一年でした。

経営的には高単価になった作物もありましたが個人別の収入差の大きい年でありました。

活動では、各部会の研修会や9次農業振興計画に係るコントラクター事業をテーマに先進地の帯広地区を視察しました。今後も各関係機関に協力をいただき、農協と共に生産者にベストな形態を模索していきたいと考えております。

デフレ報道と農業政策の先が見えない中で年明けですが、ファーマーズマーケットなど販売の多様化も含め、我々の農協組織と英知で、この難局を乗り越え農業経営を安定したものにしなければならぬと思います。最後になりますが、皆様のご多幸と豊稔を祈念し年頭のご挨拶と致します。

## 年始営業のご案内



1日(金)~3日(日)	ATM	取扱中止
4日(月)	金融部(本支店)・共済部・管理部 通常営業・業務 開始	
	ATM	各店舗 8:45~18:00
	ATM	昭和タウンプラザ 9:00~21:00
6日(水)	営農部(販売課・営農相談課・生産資材課) 通常業務・営業 開始	

謹んで新春の

お慶びを申し上げます

- 代表理事組合長 山岸 栄一
- 専務理事 佐々木 修平
- 常務理事 岡村 三千男
- 理事 土井 清美
- 理事 近江 政夫
- 理事 坂口 雄一
- 理事 佐藤 秀治
- 理事 坂爪 庄一
- 理事 柴谷 廣道
- 代表監事 立蔵 義春
- 常勤監事 柳町 芳徳
- 員外監事 吉岡 隆
- 管理部長 平井 繁
- 金融部長 工藤 隆博
- 共済部長 大野 元弘
- 営農部長 松本 良勝
- 美原支店長 田中 博
- 本通支店長 小川 洋二
- 桔梗支店長 逢坂 勉

# 平成21年度 営農懇談会開催される

昨年12月2日(火)午後1時30分より当組合本店3階大会議室にて、来賓・普及センター・函館市農林課を迎えて平成21年度営農懇談会が開催されました。

山岸組合長より平成21年度の作況及び組合各事業の説明がなされ懇談会に入りました。

管理部より農協事業の現況説明があり、続いて営農部より農産物の取扱状況並びに生産資材品目別価格情勢の報告、金融部・共済部・(株)ジェイエイ・エネルギー販売の現況説明をし質疑応答に入りました。

質疑では、今後の農産物販売戦略(契約物)についての考え方や、新品種の種子馬鈴薯確保及び配布状況等、活発な議論がなされ営農懇談会を終了いたしました。



燃料部門子会社の

(株)ジェイエイ

エネルギー販売

昨年中は、ご愛顧賜り誠にありがとうございました。本年も皆様からのご利用を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

山岸 栄一

専務取締役

佐々木 修平

取締役部長

高橋 信義

取締役

平井 繁

監査役

立蔵 義春

監査役

柳町 芳徳

監査役

吉岡 隆

他役員一同

## 『第26回 J A 北海道大会』で決意込め意見表明

11月20日、3年に一度のJ A北海道大会が札幌コンベンションセンターで開催されました。この大会は全道110 J Aや関連組織の代表約1,800人が集い、J Aグループ北海道の今後の基本方針を決議、J Aの立場を明確にし、内外にアピールする場となっております。

当J Aからは山岸組合長をはじめ役員、青年部、女性部の代表者あわせて9名が参加いたしました。

オープニングは自称農業タレント「森崎博之さん」(TVあぐり王国北海道出演)による「本物の食育」について、番組の裏話を交えた楽しくまじめなトークショーから。本大会では飛田稔章北海道中央会会長が「大転換期にJ Aグループが総力を結集し、各連合会、農協が責任をもって実行を」とあいさつで述べられました。

また、北海道知事をはじめ多くのご来賓が出席、大会に花を添えられました。

大会議案は以下のとおり

### 議案第1号「北海道農業の潜在能力のフル発揮への挑戦」

1. 北海道農業の潜在能力を発揮するための農業政策の実現に向けた運動の展開
2. 「食」と「農」の大切さを発信する活動の展開
3. 農業所得の拡大のための作目別対策の推進
4. 担い手の確保・育成と営農支援機能強化
5. 食の安全・安心確保とバイオマス対策の推進

### 議案第2号「協同と信頼の絆で築く新時代のJ A」

1. J A活動への参加による組織基盤の強化
2. 多様な事業機能の発揮によるサービスの提供
3. J Aらしい経営スタイルの確立と健全経営の実践
4. 活力ある職場づくり

また、大会決議の前に当J Aの山岸組合長ほか2名が賛成の立場で力強い意見表明をいたしました。山岸組合長の意見表明の内容は次のとおり。

都市化農協として信用・共済事業、ともすれば員外事業主力と見られがちだが、本筋は農業生産に軸足をおき地域の農協としての役割を担っている。政権交代の現状でも農業者、J Aグループが求めるものは変わらない。農業所得拡大のための政策実現に向けた運動が必要不可欠だ。当地区は野菜が中心。価格低迷の影響は大きく価格安定制度の早期確立に注力することが重要だ。高齢化による正組合員の減少で、組織基盤の弱体化が懸念される今、既存組合員への積極的な働きかけはもとより、新たな組合員獲得に向けたJ Aへの理解促進、組合員や利用者のニーズに適切に対応できる職場づくりが重要だ。・・・

大会決議に基づき北海道農業の発展に全力を注ぐと、壇上で力強く意見表明いたしました。

満場一致で全ての議案が採択され方針決定がなされました。

J Aグループ北海道が総力を結集し、各々責任をもって実行することにより3年後に開催される同大会がより有意義な大会になることと思います。



雪の下大根の収穫

毎年恒例の「越冬大根」の出荷が、12月初旬から例年通り始まっております。

四軒家の宇野稔さん宅では、12月17日より選果が始まり、この日の気温は氷点下5度、極寒のしばれの中、家族総出で大根出し作業をしておりました。

午後からは、農協の洗浄施設に持ち込まれた大根を早速、親子3代・5人で一本、一本丁寧に洗い選果されております。

亀田の越冬大根は、殆どが札幌方面に出荷されており【雪の下大根】のブランド名で店頭に並び、みずみずしさ・甘さが大



評判、おでん・おろし・煮物等に欠かせない逸品です。

大根部会長の宇野さんは今季2町7反分の越冬大根を埋けており、若干小ぶりだが出来はまずまずで、

《毎日、寒くて(さんびくて)大変だけど3月末まで、かかってゆっくり洗うべや!》

と家族、和気藹々と笑顔で選果してございました。

越冬大根は、販売価格についても好調で、本州物の葉付大根より高く販売されており、これから春大根の種まき直前の4月頃まで出荷されます。

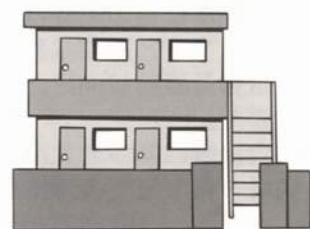


「土地・建物を売りたい・買いたい・貸したい・借りたい」  
「孫が結婚するのでアパートを探している」「アパートを建てたが、空き室が多くて困っている」

このようなお話がございましたら、お気軽にご相談下さい

アパート等をお持ちの組合員の皆様へ

当社のホームページに物件を掲載してみませんか?  
掲載による費用負担は一切ございません



JA 安心と信頼のJA不動産

株式会社 協同振興サービス

http://www.kyodoshinko.com  
TEL 47-7006 FAX 46-5949



宅地・建物仲介業務の  
(株)協同振興サービス

昨年中は、ご愛顧賜り誠にありがとうございました。  
本年も倍旧のご利用を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

山岸 栄 一

専務取締役

佐々木 修 平

取締役

平 井 繁

監査役

立 蔵 義 春

監査役

柳 町 芳 徳

監査役

吉 岡 隆

他役職員一同

# 振り込め詐欺に **要注意！！**

## ◇ オレオレ詐欺とは

電話を利用して親族、警察官、弁護士等を装い、会社での横領・トラブルや交通事故の示談金等の名目で、現金を預金口座等に振り込ませるなどの方法によりだまし取る詐欺をいいます。

## ◇ 架空請求詐欺(支払え詐欺)とは

身に覚えのない料金請求のことで、郵便、インターネット等を利用して不特定多数の者に対し、架空の事実を口実とした料金の請求や、偽の裁判通知などの文書・メール等を送付するなどして、現金を預金口座等に振り込ませるなどの方法によりだまし取る詐欺をいいます。

## ◇ 還付金等詐欺(返します詐欺)とは

税務署や社会保険庁、市町村役場等をかたり、税金や保険料、医療費、利用料金等の還付等に必要の手続を装って、電話で指示しながら被害者にATMを操作させ、被害者が知らないうちに振り込ませるといふ、口座間送金により現金をだまし取る詐欺をいいます。

上記の被害にあわないために…???



## 振り込め詐欺にあわないために！！

金融機関では、窓口職員などが「振り込め詐欺防止担当者」として、被害に遭うおそれのあるお客様に対して、声をかけるなどしております。

金融機関で窓口で声をかけられたことで、振り込め詐欺に気付き被害に遭わずにすんだ方がたくさんおります。

窓口職員はお客様が被害にあってはいけないという思いで声をかけておりますので、声をかけられた場合は気を悪くせずにご理解とご協力をお願いいたします。

亀田農友会	青色申告会	貸地貸家組合	年金友の会	女性部	青年部	畜産部会	南瓜部会	キャベツ・白菜部会	人参部会	大根部会	水稻部会	小豆部会	馬鈴薯組合	連絡協議会会長 平レン草長むき部会	函館市亀田農協生産部会
三上茂	紫前雅之	山田洋悦郎	金子正雄	山田栄子	泉宗伯	山辺武之	西浦克彦	渋谷進	西谷裕義	宇野稔	山下山正	上田幸喜	金澤賢昌	佐藤均	

謹賀新年

